

振り返りを活かした、授業・テストと家庭学習をつなぐ試み

東京電機大学中学校・高等学校 星野 智

実践背景

テスト前に、授業の復習をせずに慌てて問題集の掲載順に問題を解くだけの学習をする生徒をよく見かける。出題範囲(単元)が制限される定期考査はやり過ごせても、大学受験のように広範囲から出題される試験に臨むには、その方法では難しい。

先に述べた学習方法から脱却するために
自分の理解状況の把握→必要な課題の設定→学習
→新たに理解状況を把握→・・・

といった学びのサイクルを回す良さの実感と方略の獲得を目指して、これまで授業の振り返りで「わかる」、「わからない」を明確にし、それに基づき学習課題を設定する指導を継続してきた。

その過程において、以下の問題点が明らかになった。
(A) 提出を目的とした、その場しのぎの振り返りの記述
(B) 振り返りが活かされてるように見えない問題演習
(C) 教員の点検の負担感と不十分さ

振り返りに基づき課題設定をしてから行う学習に役立ち感が得られれば、上記(A)、(B)の改善につながるのではないかと期待し、本実践を行った。加えて(C)を解決するための仕掛けも試みた。

実践方法

- 対象学年: 高校2年生
- クラス数および対象生徒人数: 4クラス(計108名)
- クラスの特徴(コースや習熟度編制等):
 - 中高一貫生 理系上位 1クラス(19名) 4単位授業
 - 高校入学生 理系上位 1クラス(18名) 4単位授業
 - 高校入学生 理系標準 1クラス(36名) 4単位授業
 - 高校入学生 理系標準 1クラス(35名) 2単位授業
- 実践期間: 2学期(9月から12月)

実践紹介

(1) 授業後に振り返りを専用の冊子に書かせ、それに基づき2週間毎に実施する10分間の朝テスト対策のための学習課題を設定させた。

【振り返りで記入させたこと】

①わかったこと ②つまづき ③自己設定課題
※③は「すぐに取り組む課題」、「朝テストまでに取り組む課題」の少なくとも一方を設定するよう指示

(2) 朝テスト返却時に書き直しをさせて、朝テストの結果に基づいて「考査までに取り組む追加課題」を設定させた。

①	②
③ すぐに	③ 朝テストまでに
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	③ 朝テスト後に追加
	<input type="checkbox"/>

図1 振り返りの記入欄と実践(1)、(2)の対応

実践における工夫

- 授業内で活動する時間の確保**
この実践の鍵となる活動である振り返りを記入させるために、毎授業で必ず5分を確保した。また、朝テスト返却時の復習、定期考査に向けた追加課題の設定には1時限を費やした。
- 生徒同士で互いに高め合えるような仕掛け**
振り返り記入後は、小グループで発表、共有させ、そこで得られた他者の振り返り、課題設定の良い部分は自分の振り返りに加筆するよう促した。また、「追加課題」設定後は、振り返りの写真をロイロノートで提出させ、提出箱は一定期間は共有状態にして、互いに見られるようにしておいた。
- 日常の回収・点検の簡略化**
振り返りの冊子は毎授業後に回収するが、点検は項目を絞り短時間で行った。

取得データおよび検証方法

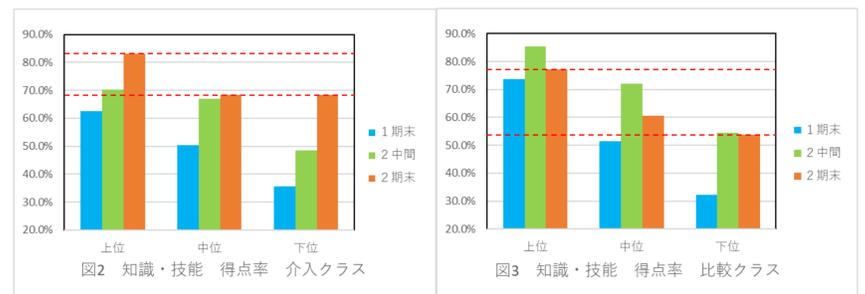
- ・アンケート
 - ① 6段階択一式(7月、12月 計2回)
 - ② 自由記述(振り返り活用状況、前向きさの変化 12月)
- ・定期考査の得点
- ・生徒の記述した振り返り(画像データ)

結果

(1) 考査結果の比較・変化(高校入学生 理系標準 4単位授業)

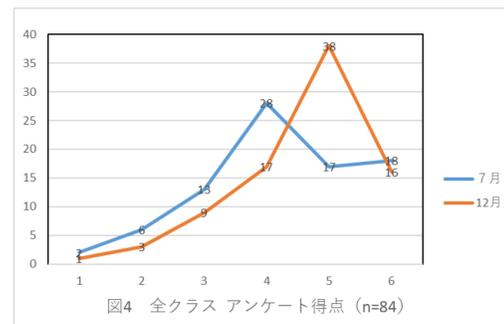
表1 定期考査平均点推移

平均点	1学期期末	2学期中間	2学期期末
介入クラス	42.7	59.6	65.4
比較クラス	45.9	65.7	57.1



(2) 意欲の変化(アンケート)

「私は数学の学習に前向きな気持ちで取り組むことができている」



- 1 まったくあてはまらない
- 2 あてはまらない
- 3 あまりあてはまらない
- 4 少しあてはまる
- 5 あてはまる
- 6 とてもあてはまる

(3) アンケート自由記述(一例)

- ・ テストの点数が大きく伸びたわけではないけれど、1つ1つの授業での理解度が以前より高まり、前向きな気持ちで取り組むことができるようになった。理解度が高まったのはふりかえり冊子のおかげな(原文ママ)気がする。【高入生・理系上位クラス】
- ・ 課題の設定をすることによって、普段の数学の勉強時間が少し増えた。わかったことを書き出すこととクラスメイトへの発表と共有はやった単元で大切なことは何かと自分は何がわかったのかを確認できて公式や問題の解き方が頭の中に残りやすくなった。【高入生・理系標準クラス】
- ・ その場で取り組む課題を設定することで後で何をしようか悩む必要がなく効率よく学習を進められるので、数学に限らず他教科でも実践したい。【一貫生・理系上位クラス】

成果・考察と今後の課題

成果・考察

介入クラスでの定期考査の平均点の上昇(表1)、知識・技能の特に下位層の得点率の大幅な上昇、上・中・下位の差の縮小(図2、3)から、どの学力層の生徒にも学習の足場かけとして機能したと考えられる。また、学習意欲に関しては、全体的な向上が見られ(図4)、自由記述アンケートから、本実践が意欲向上への役割を担ったと判断される記述も見られた。

今後の課題

今後、振り返り活用の姿勢を崩さないように、どのような段階を経て足場はずしを行うか。主だった成果が得られなかった2単位の授業での指導の工夫。